

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 長岡福祉協会	代表者	田宮 崇	法人・ 事業所 の特徴	H18年12月高齢者総合ケアセンターこぶし園初の小規模居宅介護事業所として開設。同事業所内にサテライト型特養、ショートステイ、訪問介護事業所を併設している。近隣地域の中の事業所の特性を活かし、『住み慣れた地域でその人らしい暮らしのあり方』『居心地のよい環境づくり、温かい笑顔でのケアの提供』を理念に、柔軟なサービス提供のもと、これまでの生活を支えていけるように取り組んでいる
事業所名	小規模多機能型居宅 介護美沢	管理者	佐藤佳代		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・ 地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支 援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
		2人	1人	2人	0人	1人	1人	0人	3人	人

項 目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取 組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己 評価の確認			<ul style="list-style-type: none"> ●1人1人真剣に取り組んだ評価の結果がみえる ●地域との関わり、あり方、必要情報の連携・協働を実現するためのやり方の工夫が必要 ●虐待ではないと思われるが「あまりできていない」と職員によって認識の差があるようなため、その理由を分析していくことが必要 	<ul style="list-style-type: none"> ●地域からの認知度が低いいため、事業所の役割についての情報発信をしていく ●地域ニーズの分析、声を共有し、情報の見える化を行って行く ●ご利用者の思いや生活状況をきちんと理解し、一緒に考え、ケアの提供を行う ●虐待・身体拘束・個人情報保護・プライバシーについての勉強会を継続していく
B. 事業所の しつらえ・環境			<ul style="list-style-type: none"> ●今まで以上により地域の人たちが入りやすい事業所への工夫が必要 ●事業所内の見学と説明を行い、事業所内の状況や様子がわかるとよい ●職員ミーティング開催場所の検討が必要（個人情報保護の観点含め） ●地域の人には「介護の人を受け入れる施設としてのみ認識している」将来入りたい（利用したい）施設としての理解をしてもらえるようにしたい 	<ul style="list-style-type: none"> ●地域の中の風通しのよい事業所としての位置づけ（ボランティアの導入、事業所としての環境整備、駐車場などハード面の工夫） ●地域の人たちと共に行える活動（プランターの花植え等）や環境整備を行う ●年代を超えた世代が関われる環境作り ●事業所内の理解を深める意味で、生活状況や提供しているサービスの様子を目と耳でわかりやすいやり方を工夫する

C. 事業所と地域のかかわり			<ul style="list-style-type: none"> ●事業所に相談の役割があることを地域へアプローチが必要 ●地域の高齢者や子供たちが気軽に入ってこれる場所であって欲しい（職員も地域へ入っていく） 	<ul style="list-style-type: none"> ●相談窓口の役割を含め、地域へ情報発信を行う ●地域の方がいつでもこれる茶話会やの実施やボランティアの導入（フリーカフェの導入） ●近隣のコミュニティセンターを活用し、共同でできる活動を共に行う
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み			<ul style="list-style-type: none"> ●利用以外の地域の方の情報把握はできていないため、民生委員や町内会長との関わり、情報共有が必要である ●ご利用者にとっての自己実現のカギやテーマが、その人の培った地域にあるのではないか 	<ul style="list-style-type: none"> ●地域行事への参加を行い、顔のみえる関係づくりと、地域のニーズの把握に努めていく ●行事やイベントだけでなく、日常的に気軽に外出できる機会設ける
E. 運営推進会議を活かした取組み			<ul style="list-style-type: none"> ●地域の求める情報の共有化を図って欲しい ●運営推進会議の内容の周知の方法の検討が必要である 	<ul style="list-style-type: none"> ●運営推進会議の内容の見直しと、構成メンバーの見直しを図り、より地域の中での役割を共有できる方法を検討する
F. 事業所の防災・災害対策			<ul style="list-style-type: none"> ●地域へ事業所の防災計画の詳細を提示して欲しい ●地域住民の事業所防災訓練への協力の必要性を理解し、参加をして欲しい ●事業所が地域の方に対しても、弱者を受け入れる場としての役割があることを広く共有して欲しい 	<ul style="list-style-type: none"> ●地域と事業所と一緒に防災計画をもとに、防災について学ぶ機会を持ち、意識の共有化を図り、共同での防災・水害・地震訓練を実施する (地域の人たちと共に災害への意識を高めるために、炊き出しなどの体験の場所の提供)